

製品名: Ets-1 (リン酸化 Thr38) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04647**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 54kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | ETS1 |
| 別名 | ETS1; EWSR2; Protein C-ets-1; p54 |
| 遺伝子 ID | 2113.0 |
| SwissProt ID | P14921 |
| 免疫原 | 抗血清は、Thr38 のリン酸化部位周辺のヒト ETS1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 11-60 |

背景

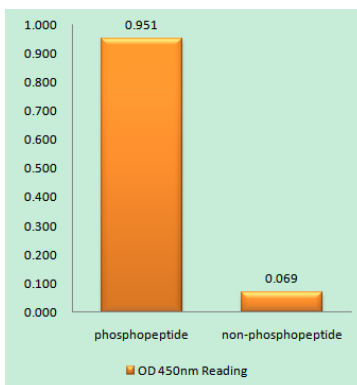
この遺伝子は、標的遺伝子のコアコンセンサス DNA 配列 GGAA/T を認識する保存された ETS DNA 結合ドメインの存在によって定義

される転写因子の ETS ファミリーのメンバーをコードします。これらのタンパク質は、多数の遺伝子の転写活性化因子または転写抑制因子として機能し、幹細胞の発達、細胞の老化と死、および腫瘍形成に関与しています。この遺伝子については、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが記載されています。[RefSeq 提供、2011 年 7 月]、疾患: ETS は、赤芽球および線維芽細胞の形質転換に関与しています。インターフェロンと c-ETS-1 プロトオンコ遺伝子の並置は、ヒト単球性白血病の病因に関与している可能性があります。、機能: 転写因子。、PTM: Lys-15 および Lys-227 が SUMO2 によって優先的に SUMO 化されます。転写活性を阻害する。、PTM: ユビキチン化され、プロテアソーム分解を誘導する。、類似性: ETS ファミリーに属する。、類似性: ETS DNA 結合ドメインを 1 つ含む。、類似性: PNT (尖った) ドメインを 1 つ含む。、サブユニット: MAF および MAFB と相互作用する (類似性による)。DAXX に結合し、UBE2I と相互作用する。、

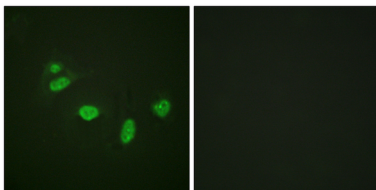
研究分野

背腹軸の形成; がんの経路; 腎細胞癌;

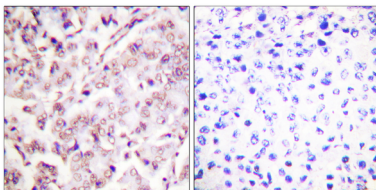
画像データ



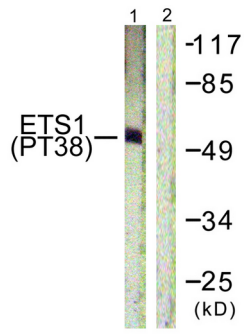
ETS1 (リン酸化 Thr38) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



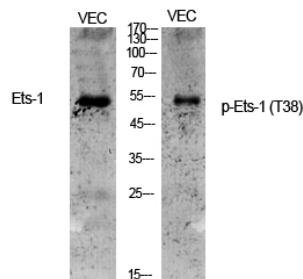
ETS1 (リン酸化 Thr38) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



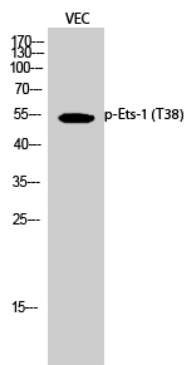
ETS1 (リン酸化 Thr38) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 20% 15' で処理した HeLa 細胞ライセートを ETS1 (リン酸化 Thr38) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホ Ets-1 (T38) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。



ホスホ Ets-1 (T38) ポリクローナル抗体を用いた VEC 細胞のウェスタンブロット解析。